

スポーツ鑑賞における解説内容の違いが態度・行動意図に与える影響

—大学バレエクラスを題材に—

スポーツビジネス領域

5009A055-2 醍醐笑部

研究指導教員 木村和彦教授

1. 序論

「生涯スポーツ」という言葉が浸透した今日、人々は「する」だけでなく多様な形でスポーツライフスタイルを築いている。しかし、スポーツ科学研究においては個々に取り上げられ、関係性や影響について触れたものは少ない。従来の研究では、「するスポーツ」が「みるスポーツ」へとつながることは実証されているものの、その逆については先験的に述べられるにとどまっている。

見せ方に関する科学研究によって、「するスポーツ」を扱う経営体にとっては、そのきっかけとして「みるスポーツ」の提供の仕方を提示し、「みるスポーツ」を扱う経営体にとっては、一時的なスポーツサービスにとどまらずスポーツ参加市場を拡大することを明確に示すことが出来るだろう。また、ダンスの男女必修化に伴い、ダンス経験がなく適切な指導ができるのかと不安に思う教師や、踊るだけでなく鑑賞としてのダンス授業の工夫に取り組む教師の手がかりになることも期待できる。

2. 研究目的

より良いスポーツへの態度や行動意図を持つには、ただ試合を見せるだけでなく、「どのようにみせるか」「何を見せるか」「見せ方」が重要なのではないかと考えた。本研究ではバレエを題材としてDVD鑑賞を行う。どのような解説内容が、態度・行動意図を高めるかについて明らかにする。

3. 研究方法

【Step1 予備調査】

調査の対象者となる大学生に、介入方法として口頭による「解説」が有効であるか、を確認する。さらに、先行研究によって採用した「態度・行動意図」についての調査項目6項目を使用し、改善すべき箇所を確認した。

【Step2 DVD コンテンツのプロダクト構造】

DVDをみている視点について、プロダクト構造の概念を用いて分析する。その結果により、本調査の解説内容が選択、決定される。

【Step3 本調査】

上記2つのステップを経て本調査を行う。解説によって視点の操作がなされ、その結果態度や行動意図に変化があるのか明らかにする。

4. 予備調査

【調査概要】

調査日 2010年4月7日

対象者 W大学「バレエ基礎」授業 受講生

回収数 計107名 (有効回答率100%)

調査方法 質問紙調査

【分析方法】

対象者を3群に分類し、鑑賞前後の変化を測定した。解説内容は以下の通りである。

表1:予備調査の解説内容

1	34人	技術や、それを生みだす身体的特徴について
2	38人	表現力や作品のストーリーについて
3	35人	ダンサー、バレエ団、衣装、舞台美術について

【結果】

教師による解説を付けることで鑑賞者の意識や注目する点に影響を与えることが出来ると明らかになった。態度・行動意図は解説内容による相違がみられ、初心者に顕著であった。しかし、本調査にむけた課題も明らかとなった。予備調査では6つの形容詞対を尺度として用いたが、調査対象者からは、これらの尺度が「するバレエ」について聞いているのか、「みるバレエ」について聞いているのか不明確であると指摘があった。さらに、本調査では解説内容についても精査が必要であると感じ、スポーツ観戦におけるプロダクト構造をもとに解説内容を作成する。

5. DVD コンテンツのプロダクト構造

【調査概要】

調査日 2010年7月20日～8月20日

対象者 W大学T大学ダンス部・ダンスサークル

回収数 80

調査方法 郵送法を用いた質問紙調査

【分析方法】

DVD鑑賞後、感想を聞くプロット調査を行った。自由記述の解析ソフトを用いて形態素分析を行った。得られた30の要素と、作品解説や舞踊研究の文章から考えられる要素を加え、35の要素を作成した。質問紙を用いて5段階評価で回答を求めた。

【結果】

結果は、本調査で使用する解説が因子をまたぐような内容にしないための確認作業ととらえ、各因子の中心的な項目で、かつ他の項目と相関の低いものを解説内容として使う。

表2:バレエDVDプロダクト構造

因子	項目	寄与率	解説
F1:動き・ダンサー因子	手足の動き	31.32	動き・ダンサーの解説
	回転の美しさ		
	主人公の踊るシーン		
	動きの美しさ		
	動きの軽さ		
	有名なダンサーの踊り		
F2:物語・舞台環境因子	ジャンプの高さ	8.056	物語・舞台環境の解説
	物語性		
	髪飾りや小道具		
	全体のストーリー		
	バレエ団の歴史や組織		
	舞台装置		
F3:表現因子	衣装	3.891	表現の解説
	ダンサーの経歴		
	役へのなりきり		
	ダンサーの演技力		
	ダンサーの表現力		

6. 本調査

【調査概要】

調査時期 2010年9月29日

対象者 W大学バレエクラス（応用）受講生

回収数 計65（有効回答率94.2%）

調査方法 質問紙調査

【分析方法】

有効な回答を得られた65人を3群に分けた。解説内容は以下の通りである。各群における、注目点および態度・行動意図の変化は5段階のリッカート法を用い測定した。群間の比較については、3条件（解説群）×2地点（鑑賞前後）での反復測定を行った。

表3:本調査の解説内容

1	ダンサー・技術解説群	ダンサー(主人公、有名ダンサー)と技術(ジャンプ、回転、動き)について
2	物語・舞台環境解説群	物語性と環境(衣装、舞台装置)について
3	対照群	最低限の情報のみ

【結果と考察】

各解説群において、鑑賞前後の態度・行動意図は以下の項目について有意に向上が認められた。

表4:態度・行動意図の変化

		ダンサー・技術解説群	物語・舞台環境解説群	対照群
全体	する	好感度(*) 継続意図(*)	好感度(*)	得意度(*) 継続意図(*)
	みる	好感度(*) 身近度(***) 積極度(*) 継続意図(*)	好感度(*) 身近度(***) 積極度(*)	好感度(*) 身近度(*) 積極度(*)
初心者	する	なし	好感度(*)	なし
	みる	なし	積極度(*)	なし
継続者	する	好感度(*)	好感度(*)	なし
	みる	積極度(*) 身近度(*)	身近度(*)	身近度(*)

対象者全体の結果として、動きやダンサーについて解説を添えた1群は「みるバレエ」への影響が他の群に比べて高く、「みる」態度に直結している。「みるバレエ」への継続意図に影響を与えているため、継続して鑑賞を行う観客を育てるには有効な方法であるのではないかと。物語性・舞台環境について解説した2群では、「するバレエ」への継続意図の向上がみられず、バレエ作品の知識ばかり与えると「する」側面への態度・行動意図へ影響力が少ないようである。「みるバレエ」への得意度が、2群についてのみ有意に向上したのも、「みる」ことに偏った結果と思われる。こうした負の影響も確認できたことで、解説のバランスも重要であることがうかがえた。

ダンス必修化への示唆を述べる。ダンス授業の特徴は、生徒のほとんどが初心者であることだ。予備調査や先行研究により、初心者は解説の影響を受けやすいことが分かる。本調査の結果から、初心者は物語性・舞台環境を解説した2群においてより良い態度変化がみられた。そして、生徒の「知」の成長に伴い、1群のような身体や技術に関する解説を行い、その後の行動にもつながる授業へと発展していくことが望ましいと考える。